

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870101870		
法人名	医療法人社団 協栄会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 しゃらく		
所在地	水戸市中丸町604-1		
自己評価作成日	平成25年8月23日	評価結果市町村受理日	平成26年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detai1_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0870101870-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千東4637-2
訪問調査日	平成25年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の理念の下、地域に根差した利用者個々の自分らしさのある生活が、より実現していけるよう取り組んでおり、利用者の想いや生活ベースを考えながらケアに繋げていける様、些細な情報も大切にしながら検討している。また、その実現には家族の協力が大切である事も考え、日々の様子報告を交えながら家族との信頼関係の構築に努めている。家族・本人交えて雑談したりお茶をしたりする場も持ち、こういった時間は関係を作っていく為にも必要な事だと理解している。地域交流の為、開催している夏祭りのイベントでは、催し物を「協力しましょうか」という声が掛かったり、祭りのイベント告知の為に近所へポスティングへ周った際に、「今年もやるんですね。楽しみにしています。」という声を聞けたりと、地域の一員としての立ち位置が築けていると感じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症ケア、地域密着を理念に掲げフロアに提示しながら意識を持って取り組めるよう心掛けています。また、新入社員には、入社段階で説明し、当事業所の理念の共有・理解を促している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりを大切に考え、市民運動会や敬老会等の地域イベントの参加を現在も継続している。地域内で活用している美容室とは関係が作れており、認知症の方の理解・協力を得る事が出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症の理解をより得る為、法人内や他事業所へ勉強会の講師に向かっている。民生員から、地域で認知症により困っている方の話があった際には、相談窓口になることを申し出ている。また、夏祭りイベント等で事業所のパンフレットを配布し、相談が受けられる様に図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。現場職員はその会合に参加する事もある。貴重な意見は、主に全体会議を通して管理者から職員へ伝達し、周知出来るようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、市町村との関係を大切に考え積極的に関係構築に取り組んでいる。現場職員は直接的に関わる事はないが、認定調査や役所の方の来訪の際、施設での取り組みを伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を開き、拘束について学ぶ機会を設けている。転倒等の様々なリスクに対しては、日々の申し送りやカンファレンスで話し合い、環境等の工夫をしながらリスク軽減に取り組んでおり、今までに身体拘束は行っていない。起こり得るリスクに対しては、家族へも十分に説明し、理解を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての資料を各フロアに保管し、いつでも見直す様にしている。また、虐待に関するニュース等は、資料として各フロアに配布され、振り返りが出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に外部講師を招いて勉強会を開催し、その制度の学ぶ機会を設けている。今年度は、8月に開催予定であったが、外部講師との日程が合わず、再調整して今後開催する予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等は管理者が十分な説明をし、同意を得ている。改定等の際には文書にて家族へ提示し、必要に応じて同意を得ている。ご家族の疑問に応えられる様、管理者から職員へ全体会議等を通して説明があり、周知出来る体制を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の変化に応じて家族との面談する機会を作り、要望・意向の確認をしている。また、家族会の開催を定期的に行い、家族間での意見交換の出来る場を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月/1回開催される全体会議を意見交換の場として活用している。またその都度、必要と判断した事は、臨時のフロア会議を開催し、管理者も同席しながら、意見交換を行なっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与や昇給の際に、個人面談を設けて日頃の評価を伝えると共に各職員の意見・悩みを聞き出しながら、職員がやりがいを持って働く事ができるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全体での勉強会はもちろんの事、新人職員を対象とした勉強会も定期的で開催している。新人勉強会には、対象外の職員も希望に応じ自由に参加出来るようにしている。また、個人の能力に応じた外部研修の機会を作ったり、研修の回覧板を回し自己啓発を促したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、ケアマネジャーの会に参加したり、専門学校との協力関係を作ったりしながら、独自のネットワーク作りに努めている。また、同法人内では互いのイベント等を通して交流する場を持ちながら、情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始に辺り、本人や家族からの要望や想いを伺う機会を持ち、関係構築に努めている。また、入所初期の段階では、特に家族の協力が必要である事を説明し、家族と共に利用者の安心した生活が送れるよう図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたって、職員が直接家族の要望等を伺い、情報としてまとめて職員全体が共有していけるようにしている。入居直後の家族の不安や葛藤を理解し、まめな報告をすると共に、その伝え方にも配慮をするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その利用者にとって、何が最優先として必要な事が管理者及び職員でカンファレンスを行ない、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の思いを忘れずに、家事や風習等の長年の経験や知識を教えながら、一緒に家事や畑作業等を行ない、生活を共にさせて頂いてる者としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等には近況報告を行ない、利用者の様子を共通理解していけるよう取り組んでいる。また、利用者の家族へ対する想いを考えながら、状況に応じて家族に自宅への外出や面談に來れないか等の相談を持ちかけ、共に利用者支援していける様に取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の段階で馴染みの場所や店などを伺い、出来る限りその関係が継続していける様に取り組んでいる。また、知人の方が面会に來られた際には、職員もコミュニケーションを取りながら、気軽にまた來設して頂けるよう、雰囲気作りに配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性、それに伴う相性を観察し、必要に応じて職員が間に入る等しながら、配慮をしている。状況によっては、フロア会議等で話し合い、席配置等の環境整備やフォローの入り方等を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も病院や施設へ面会に行ったり、家族の悩みを伺いフォローしたりしている。グループケアの一環として、葬儀の参列や新盆の訪問等も行なっている。退居後、近くに寄ったからと家族が当事業所へ来訪してくれる事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いや悩みはどこにあるのか観察しながら、フロア会議でのカンファレンス等で、本人はどんなケアを必要としているのか話し合い、実現していけるよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に生い立ちや習慣等を伺いアナムネーゼを作成し、把握に努めている。入居後も家族や知人から得られた情報は継ぎ足していくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤時に必ず申し送りノート・生活記録を読むようにし、継続した状況の把握が出来るように努めている。また、1日のサブリーダーを決め、申し送りを行ないながら、日中・夜間通して情報共有していける様に取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行ないながら、実際に一番身近で関わる各職員が計画を作成し、計画作成担当者とは相談・修正をかけながら、より本人本位の介護計画が作成出来るように取り組んでいる。また、その都度家族へ要望を確認したり、状況の変化に応じて計画の見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きは生活記録へ個別に記録している。また、必要に応じ別に書式を作成してデータを取るなどして、介護計画やケアに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じながら、外泊や外出が行える様、調整を図り送迎や同伴等の必要な対応が柔軟に行えるよう取り組む等、その状況に応じて支援出来るように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の美容室では、車椅子のままカット出来る様にして頂いたり、かぶれやすい利用者のカラーやパーマ剤の相談を持ちたりと協力して頂いている。また、家族の方には、習慣であった散歩や墓参りの継続に協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけの病院を確認し、家族や本人の意向を確認しながら受診継続していけるようにしている。また、協力病院に固執せず、必要と感じれば、様々な専門医療を検討し家族の理解を得ながら受診をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の看護師と契約を交わし、定期的に勤務してもらい、連携の取れる体制を作っている。状況に応じ、受診や処置対応の相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、申し送り書を作成しながら、家族の意向等を伝え、治療方針を考えてもらっている。1～2日に一度は面会に向い、状態の確認をすると共に、必要な時には食事介助に行く等して、早期退院が出来る様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態によって家族の意思は揺れる事を理解し、状態の変化によって都度行なう家族面談を大切にしながら意向の確認・共有に努めると共に、最期を迎える場所を病院か当事業所か選択して頂いている。ターミナルケアの可能性を感じた場合には、臨時でフロア会議を開き、利用者の最後に向けてどんな支援をしていくべきか話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、外部から講師を招き、救急救命の講義を開催し、急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行なっている。消防署の方に訓練に参加してもらい機会を作り、避難方法の相談等、関係者を持っている。また災害対策委員にて、災害時の体制作りに努めており、近隣のマツモトキヨシとは食料確保等の協力関係を築いている。必要な事は全体会議で委員会から各職員へ発信している。市の条例に辿り、防災計画は作成中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社の際に、利用者に対し敬意を払った言葉遣いをするよう指導している。また、言葉が乱雑になってしまわない様、職員間で注意出来るよう心掛けている。浴室やトイレなど、個室である意味を理解し、プライバシーの守られた個別対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢のある言葉かけをするように心掛けている。また、入居者の何気ない言葉から活動につなげられるように努めており、職員の自己満足になってしまわないよう注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に応じて買い物に出かけたり、食事の時間をずらしたり、個々のペースに合わせて支援するように心掛けている。その為、その時々希望に柔軟に対応できるよう、1日のスケジュールは最低限のものしか組まないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で化粧の出来なくなった方でも、生活暦を参考に化粧を継続していけるよう支援したり、希望に沿って美容室に行けるようにしたりしている。カラー剤によりただれてしまった方がいた時も、キレイにしたいという本人の想いを大切に美容師と相談し、継続が出来るよう支援した。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等は、利用者の状態に合わせて声掛けしており、食事の準備・片付けを自分の役割としている方もいる。チラシ等を活用しながら、入居者の希望を拾って一緒に調理をしたり、外食へ展開したりする事も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月/1回の体重測定や毎日の食事・水分量を温度板に記入しながら栄養状態の把握に努めている。個々の状態によって、体重測定を週/1回にしたり、代替品や補助食品等も検討したりしている。副食は同法人内施設の栄養科から配送してもらい、栄養バランスの保った食事提供が出来る体制は整っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生の大切さを理解し、毎日歯磨きやうがい・義歯洗浄等、利用者の状態に合わせて道具を検討しながら、支援している。また、口腔ケアの際には口腔内を観察し異常はないか確認、義歯や口腔に問題が見られた場合には、早期の受診対応を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの時間を決める様な事はせず、温度板等を活用しながら排泄パターンを把握し、個々のペースでトイレでの排泄が行える様支援している。リハビリパンツ等を導入する場合には、本当に必要な状態なのか必ずカンファレンスを行ない、安易な使用には注意している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の促進作用のある摂取物や運動、マッサージ等、個々の利用者に向けた対応方法を見つけ支援する様心がけ、必要以上に内服薬に頼ってしまう事がないよう注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間等は決めず、間隔を見ながら本人と相談し入浴の機会を作っている。入浴の希望を伝えられない方も多いため、週2回程度を目安に利用者の様子や体調を見ながら、入浴の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活ペースや様子、体の負担等を考慮しながら、静養出来る時間を作っている。また、夜間不眠の見られる場合でも、すぐに服薬に頼ってしまわず、生活習慣を見直すように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はカルテに保管し、いつでも確認できるようにしている。服薬の変更等があった場合には、効用・注意点等を申し送り共通理解すると共に、服薬による変化に留意し、必要に応じてデータ作成等も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や能力を把握しながら支援している。家事を自分の役割として生活している方もいれば、以前からの嗜みである晩酌や散歩を継続して支援している方もいる。自ら希望等を伝えられない方も外出や散歩へ出かける機会を持ち、楽しみを感じて頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて、その日のスケジュール調整を流動的に行いながら、対応ができる様に取り組んでいる。また、希望の伝えられない方も、関わりの中で拾った言葉や様子から、外出支援に繋げられるようにしている。家族の希望に合わせて外出の援助をする事もあり、草津への温泉旅行の希望があった際には、職員が同行し1泊の家族旅行を実現する事が出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望や本人のお金を持っている事の不安も考え、管理は主に職員で行っている。しかし、本人の希望に沿って買い物等で使用できるようにしている事はもちろんの事、個人の支払い能力に応じて支払いの援助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話が使用できるように支援している。また、親族等から手紙が届いた際には、利用者が返事を書く事が出来ない場合でも、職員と一緒に手紙を書き送る等して、その関係を大切にしている。年末には、利用者の能力に合わせて年賀状に一筆書いて頂き、家族・新戚へ郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事に合わせて飾り付けを行ない、季節感を感じて頂けるように配慮している。また、湿度・温度管理を十分に行う為、フロアにはもちろんの事、各居室にも温湿度計を設置し、注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	電話を使う方も、周りが気にならずに気兼ねなく通話ができるよう電話の置いてあるスペースに個別の空間を作っている。また、フロアの座敷で静養する場合も、つい立を使用する等して配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する段階で、なじみの物がある環境の大切さを家族へ伝え協力して頂けるよう働きかけをしている。また、自宅の頃の部屋配置を参考にしながら、家具の配置を検討している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせてながら、自室やフロアの家具配置や整理整頓を心がけ、安心して生活が送れるよう配慮している。自室内の配置替え等は、利用者が環境の変化で混乱する可能性も視野に入れながら、検討している。		